

第1章

計画の基本的考え方

1	計画策定の趣旨、計画の位置付け、計画期間	2
2	計画の特徴	3
3	目指すべき都市像	4
4	重点課題	5
5	計画の推進に当たって	12

1 計画策定の趣旨、計画の位置付け、計画期間

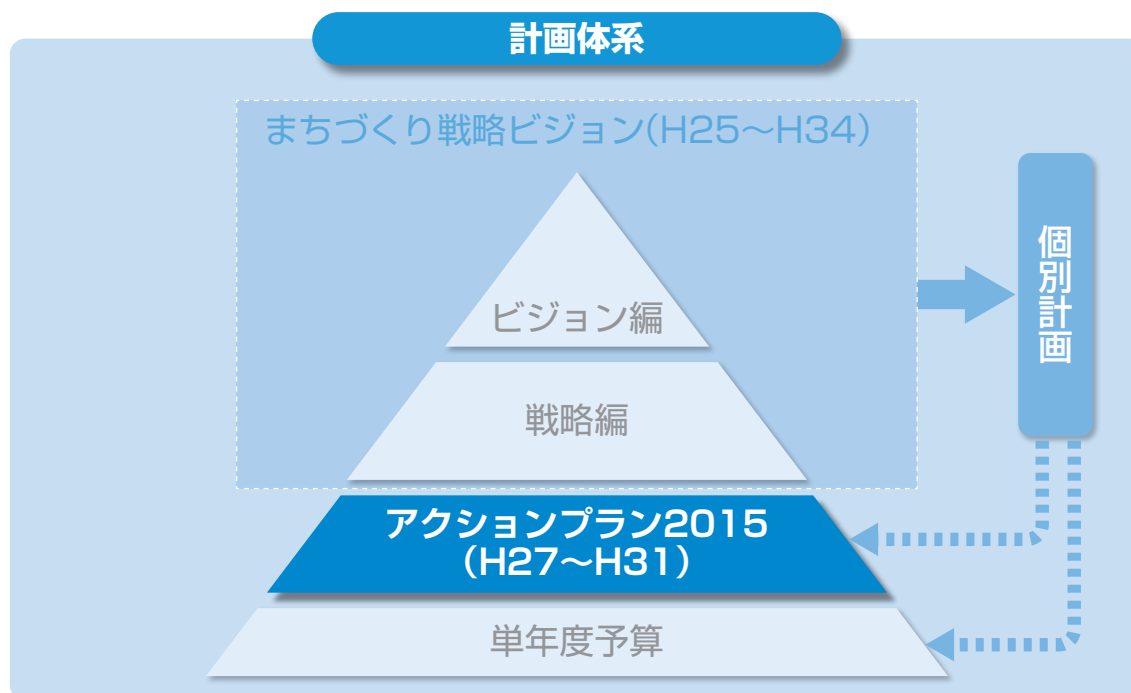
札幌市は、平成 25 年 10 月、新たなまちづくりの指針「札幌市まちづくり戦略ビジョン」（以下「戦略ビジョン」という。）を策定し、目指すべき2つの都市像「北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち」「互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち」を掲げ、その実現に向けた取組を進めてきました。

平成 27 年前後をピークに、札幌市は人口減少というこれまで経験したことのない時代の転換点を迎え、今後、経済規模の縮小や税収の減少、さらには老朽化した都市基盤¹の更新需要の集中などにより、財政状況はより一層厳しくなることが予測されております。

こうした厳しい時代に立ち向かっていくため、財政規律を堅持しつつも未来への投資は積極的に行う「メリハリの効いた財政運営」により、戦略ビジョンの実現をより一層強力に推し進めていくことが急務となっております。

今回策定する「札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン 2015」（以下「アクションプラン」という。）は、戦略ビジョンを実現するための「中期実施計画」として、札幌市の行財政運営や予算編成の指針となるものであり、戦略ビジョンとともに総合計画に位置付けられ、平成 27 年度から平成 31 年度（2015～2019 年度）までの5年間を計画期間としています。

なお、戦略ビジョンの基本的な方向に沿って策定する各分野の個別計画とも、考え方や方向性、施策などの整合性を図っていきます。



¹ 都市基盤：鉄道・道路・上下水道・公園・緑地・学校や区役所等の建築物など、都市を構成する基盤となる構造物。

2 計画の特徴

(1) 全ての政策的事業を網羅

この計画では、戦略ビジョンに掲げる「8つの創造戦略とそれを支える都市空間創造戦略」に基づいて「9つの政策目標」を設定し、その政策目標の実現に向けて、札幌市が今後5年間の計画期間に実施する全ての政策的事業を計画の対象としました。

(2) 実効性を担保する中期財政フレームを設定

計画の実効性を担保するため、計画期間における歳入や、この計画の対象外となっている経常的経費、さらには、この計画の対象となる政策的事業の見通しを推計した「中期財政フレーム」を設定しました。

(3) 人口減少対策・地方創生に関する取組の具体化

この計画と同時期に策定する「さっぽろ未来創生プラン²（総合戦略編）」（以下「未来創生プラン」という。）では、「安定した雇用を生み出すことで、経済的な不安を軽減し、市民がより安心して子どもを生み育てることができる環境をつくり、子どもが増え地域が活性化することで経済も活性化し、さらなる雇用の創出につながる」という好循環を実現するため、「安定した雇用を生み出す」ことと、「結婚・出産・子育てを支える環境づくり」を基本目標として掲げ、取り組むべき施策を示しています（184ページ参照）。

この計画では、これらの施策に基づく事業についても可能な限り計画事業として取り上げました。

(4) まちづくりの取組と行財政運営の取組の一体化

財政規律を堅持しつつも未来への投資には重点的に財源を配分し、大胆かつ堅実にまちづくりを行うとともに、限られた経営資源を効率的・効果的に活用し、複雑多様化する幅広い市民ニーズに的確に対応していく行財政運営を進めていくため、まちづくりの取組と行財政運営の取組をこの計画に一体化しました。

計画の構成

第1章 基本的考え方

- ・ 策定趣旨
- ・ 位置付け、計画期間
- ・ 重点課題

第2章 まちづくりの取組

- ・ 計画事業費、財源内訳
- ・ 計画事業

第3章 行財政運営の取組

- ・ 行政運営編
- ・ 財政運営編

² さっぽろ未来創生プラン：札幌市の人口の現状を分析するとともに、人口の将来展望と今後目指すべき将来の方向や、平成27年度から平成31年度までの5カ年の基本目標、施策等を示す計画。

3 目指すべき都市像

戦略ビジョンの中期実施計画として、戦略ビジョンで掲げる2つの「目指すべき都市像」を目指していきます。

北海道の未来を創造し、世界が憧れるまち

札幌・北海道の様々な魅力資源を、一人一人の創造性によって、より磨き上げながら、それを国内及び世界に発信することで、世界との結び付きを強め、投資や人材を呼び込むなど、世界が憧れ、活力と躍動感にあふれる、心ときめくまちを実現します。

互いに手を携え、心豊かにつながる共生のまち

誰もが生きがいと誇りを持ちながら、互いにつながり、支え合うことで、生きる喜びと幸せを感じられる、心豊かで笑顔になれるまちを実現します。

4 重点課題

この計画では、戦略ビジョンに掲げる2つの「目指すべき都市像」と、その課題認識や考え方において軌を一にするものとして、市長が平成27年6月に表明した施政方針「私の市政への思い」（以下「施政方針」という。）に掲げる2つの未来の札幌の姿「誰もが安心して暮らし生涯現役として輝き続ける街」と「世界都市としての魅力と活力を創造し続ける街」を描いていきます。

また、この未来の札幌の姿を実現するために、施政方針に掲げる4つのまちづくりの挑戦を、計画期間内に重点的に取り組む課題と位置付け、これをけん引する取組として、5つのリーディングプロジェクトを設定します。

重点課題とリーディングプロジェクト

重点課題1：「雇用を生み出す力強い街」さっぽろをつくる

おもてなし・観光強化プロジェクト

(関連計画事業)

- おもてなし・人材育成事業
- 宿泊施設民間投資誘発事業
- MICE施設整備事業

重点課題2：「女性が輝き子どもたちが健やかに育つ街」さっぽろをつくる

子育て世代応援プロジェクト

(関連計画事業)

- 仕事と暮らしのライフプラン支援事業
- 子ども医療費助成制度の拡充
- 第2子以降の保育料無料化事業
- 札幌市高等学校等生徒通学交通費助成事業

未来を担う「さっぽろっ子」育成プロジェクト

(関連計画事業)

- 算数にーごープロジェクト事業
(仮称) ウィンタースポーツ塾事業
- 児童養護施設等入所児童への大学進学等奨励給付事業

重点課題3：「いつまでも安心して暮らせる街」さっぽろをつくる

誰もが活躍推進プロジェクト

(関連計画事業)

- 高齢者の社会参加支援の在り方検討
- 就業サポートセンター等事業
- 移動支援の対象者拡大

重点課題4：「魅力と活力にあふれた暮らしやすい街」さっぽろをつくる

世界都市・道都の魅力向上プロジェクト

(関連計画事業)

- 冬季オリンピック・パラリンピック招致事業
- 札幌駅交流拠点まちづくり推進事業
- 次世代型エネルギータウン検討事業

重点課題

1

「雇用を生み出す力強い街」 さっぽろをつくる

人口減少・超高齢社会において、札幌の未来を担う若い世代が地元で就職し、結婚し、安心して子どもを産み、育てていけるようにするためには、何よりも安心して働いていける雇用の場が必要です。

リーディングプロジェクト

おもてなし・観光強化プロジェクト

安定的な雇用の場の確保のためには、札幌の経済をけん引する産業分野に重点的に取り組むことで、市内経済全体の活性化を図ることが大切です。また、人口減少局面を打開するためには、定住人口³の減少を食い止めることはもちろん、交流人口⁴を増やして海外を含めた道外から資金を獲得できる産業を育てることが重要です。

そこで、道内の経済循環を意識しながら、様々な業種にその効果が波及する裾野の広い「観光」に力を注ぎ、市民力を結集して街全体で観光客を受け入れる「おもてなしのうねり」を創出することや、宿泊施設・MICE⁵施設を充実させることで、観光産業の活性化を図り、「雇用を生み出す力強い街」の実現をけん引します。

おもてなし・人材育成事業 (P47)

ホームページや広報誌など様々な広報媒体を活用した市民のおもてなし意識の醸成やおもてなしを実践する機会の創出、事業者のサービスアップ、観光ボランティアの活動支援を通じて、観光客の受入環境を強化し、来札者の満足度向上につなげます。

宿泊施設民間投資誘発事業 (P48)

観光消費額の大きい外国人富裕層などの受入環境整備を促進するため、宿泊施設が行う客室グレードアップにつながる増改築を支援する制度を創設します。

MICE施設整備事業 (P53)

大規模な国際会議などを積極的に誘致するため、国際会議場・展示場を備えた新たなMICE施設の整備に向けた検討を進めます。

³ 定住人口：その地域に住んでいる人口。居住人口。

⁴ 交流人口：観光客などの一時的・短期滞在からなる人口。定住人口に対する概念。

⁵ MICE：多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。Meeting（会議・セミナー）、Incentive Travel (Tour)（企業報奨・研修旅行）、Convention（大会・学会・国際会議）、Exhibition（イベント・展示会・見本市）の頭文字をとったもの。

重点課題

2

「女性が輝き子どもたちが健やかに育つ街」さっぽろをつくる

女性の割合が高い街・札幌が一層発展していくためには、女性がその持てる能力を存分に発揮できる環境を更に整えていくとともに、社会全体で子育てを支える仕組みづくりを進めていくことが重要です。

また、子どもたちの中にある「生きる力」を育み、大きく伸ばすことで、世界の舞台上で活躍する「さっぽろっ子」となっていくことを期待しています。

リーディングプロジェクト

子育て世代応援プロジェクト

子育て世代が安心して子どもを育てていけるようにするためには、出産・育児の際に雇用がきちんと守られる環境を整えるとともに、医療や保育、教育など様々な面から、子育てに関する経済的負担を軽減していくことが必要です。

そこで、民間企業が育児休業の代替職員を雇用する際に支援することに加え、医療費助成の対象を小学1年生まで拡大することや、最も保育料が高い3歳未満の第2子を対象に保育料を無料化すること、高額な通学費を負担する高等学校などに通う生徒を対象に助成を行うことなどによって、社会全体で子育て世代を応援する環境を整え、「女性が輝き子どもたちが健やかに育つ街」の実現をけん引します。

仕事と暮らしのライフプラン支援事業 (P67)

札幌の未来を担う若者たちが、仕事と暮らしの調和したライフプラン⁶を実現できるよう、様々な情報発信を行うとともに、育休代替職員雇用への助成など、企業に対する支援を充実させ、ワーク・ライフ・バランス⁷の推進を図ります。

子ども医療費助成制度の拡充 (P30)

子育て支援環境の充実を図るため、現行制度で就学前児童の入院・通院と小学生・中学生の入院を助成対象としている子ども医療費助成について、新たに小学1年生の通院を助成対象とします。

第2子以降の保育料無料化事業 (P31)

これまでの第3子以降に加え、最も保育料の高い3歳未満児童を対象として、平成29年度から第2子についても保育料を無料化し、子育て世代の経済的負担を軽減します。

札幌市高等学校等生徒通学交通費助成事業 (P32)

札幌市内に居住し、公共交通機関を利用して石狩管内の高等学校などに通う生徒に、通学に要する交通費のうち基準額を超える額の1/2を助成します。

⁶ ライフプラン：自分らしく幸せに生きるための人生設計。

⁷ ワーク・ライフ・バランス：「仕事」と育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動といった「仕事以外の生活」との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方。

リーディングプロジェクト

未来を担う「さっぽろっ子」育成プロジェクト

未来を担う「さっぽろっ子」を育てるため、学問、スポーツなどあらゆる分野で、子どもたちが自らの可能性に気付く機会や、成長していくための場を増やすことが大切です。また、子どもが生まれ育った環境で将来を左右されることなく、自ら未来を切り開いていけるよう支援していく必要があります。

そこで、算数の授業において、子どもたちの学習への意欲や論理的思考力を高める少人数指導を充実することや、ウインタースポーツを幅広く体験できる機会を提供することに加え、児童養護施設などに入所している児童が大学へ進学する際の費用を支援することで、「女性が輝き子どもたちが健やかに育つ街」の実現をけん引します。

算数にーごープロジェクト事業 (P65)

課題探究的な学習⁸の充実の一環として、小学校高学年の算数で、個に応じた手厚い指導により学習への意欲や論理的思考力を高めるため、25人程度の少人数指導の充実を図ります。

(仮称) ウインタースポーツ塾事業 (P42)

小学生を対象にフィギュアスケートやクロスカントリーなどのウインタースポーツを幅広く体験できる「エントリーコース」と、高いレベルの技術指導を受けられる「エキスパートコース」を開設し、ウインタースポーツの裾野の拡大と競技力の向上を図ります。

児童養護施設等入所児童への大学進学等奨励給付事業 (P32)

児童福祉施設入所児童（里親委託児童を含む）で、大学などに入学するため措置解除となる場合、進学に際し必要な経費及び生活費などについての措置費を支給します。

⁸ 課題探究的な学習：児童生徒自らが疑問や課題を持ち、主体的に解決する学習。

重点課題

3

「いつまでも安心して暮らせる街」 さっぽろをつくる

超高齢社会の中で、いつまでも安心して暮らせるようにするためには、年齢、性別、障がいの有無などの違いがあっても、それぞれが自立し、お互いを尊重し合いながら社会に参加できる街であることが必要です。

リーディングプロジェクト

誰もが活躍推進プロジェクト

札幌に住む全ての人々が、誰かに必要とされ、安心して暮らし、社会に参加できる街であるために、誰もがその持てる力を発揮し、誇りを持ちながら、生き生きと社会で活躍できる環境を整えていくことが大切です。

そこで、高齢者がサービスを受ける側だけではなく、豊富な経験や知識を生かしながら働き続け、あるいは、福祉のまちづくりの担い手となり、サービスを提供する側となって、生涯現役として社会に貢献できるよう環境を整えるとともに、障がいのある方への外出支援を拡充し、社会参加を促進することで、「いつまでも安心して暮らせる街」の実現をけん引します。

高齢者の社会参加支援の在り方検討 (P27)

生涯現役社会の実現に向けた高齢者の社会参加支援の具体策を立案するため、既存事業の検証・再構築を含めた検討を行います。

就業サポートセンター等事業 (P68)

就業サポートセンター及び各区あいワーク⁹において、ハローワークと連携した職業紹介を行います。また、高齢者向けのセミナーや求人開拓などにより、高齢者の就業を支援します。

移動支援の対象者拡大 (P27)

障がいのある方の外出を支援する移動支援事業について、身体障がいがある方（全身性障がい¹⁰）の対象者要件を拡大することで、外出支援サービスの更なる充実を図ります。

⁹ あいワーク：ハローワークと札幌市が協力して運営する就職に関する相談窓口。

¹⁰ 全身性障がい：肢体不自由の程度が身体障害者手帳の1級に該当し、両上肢及び両下肢の機能の障がい有する状態、またはこれに準ずる状態。

重点課題

4

「魅力と活力にあふれた暮らしやすい街」 さっぽろをつくる

世界都市として、今後も国内外から多くの人々や企業を引きつけるためには、経済・文化・芸術・スポーツなど、幅広い分野で様々な交流や活動が活発に展開されている、私たちの街・札幌の魅力、求心力を維持し、一層高めていくことが重要です。

リーディングプロジェクト

世界都市・道都の魅力向上プロジェクト

時代の変化を的確に捉え、新しい試みに大胆かつ果敢に挑戦し、都市の魅力と活力を創造し続けることが、経済を活性化し、働く場の確保や税収増となって、人々の暮らしの充実につながります。

そこで、子どもたちに夢と希望を与える冬季オリンピック・パラリンピックの招致や、世界都市・道都の玄関口となる札幌駅交流拠点のまちづくりを推進することで世界中から人、モノ、情報などを引きつけるとともに、持続可能な次世代型エネルギーとして期待される水素に着目した先駆的取組を行うことなどによって、「魅力と活力にあふれた暮らしやすい街」の実現をけん引します。

冬季オリンピック・パラリンピック招致事業 (P61)

冬季オリンピック・パラリンピックの招致に向けて、招致委員会の立ち上げや招致気運醸成、広報、各種調査、立候補ファイルの作成などを行います。

札幌駅交流拠点まちづくり推進事業 (P57)

北海道新幹線の札幌延伸を見据え、札幌駅周辺の魅力を高めるため、(仮称)札幌駅交流拠点まちづくり計画を策定し、北5西1・北5西2街区や関連施設の整備、周辺街区の事業化に向けた検討に官民協働で取り組みます。

次世代型エネルギータウン検討事業 (P73)

低炭素社会と原発に頼らない社会の実現を目指すため、真駒内地区をモデルとしたスマートコミュニティ¹¹や、将来的な水素社会¹²を見据えた水素タウンの在り方などを検討し、世界に誇れる次世代型エネルギータウンのコンセプトを提示します。

¹¹ スマートコミュニティ：電力、水、交通・物流、医療、情報など、あらゆるインフラの統合的な管理・最適制御を実現した次世代のコミュニティ。

¹² 水素社会：家庭用燃料電池や燃料電池自動車など、日常生活や産業活動にクリーンエネルギーとして水素が本格的に利活用されている社会。

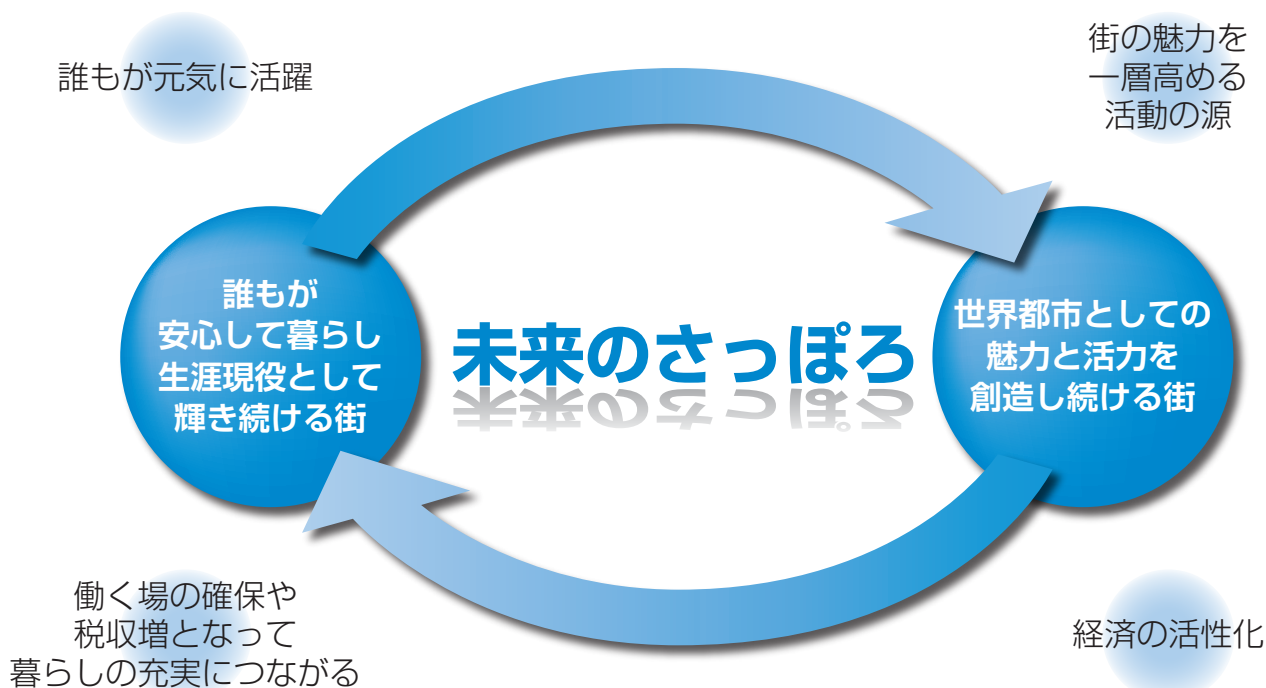
これらの4つの重点課題に取り組むことによって、相互に関係し合い、高め合う、2つの未来の札幌の姿を描いていきます。

「誰もが安心して暮らし生涯現役として輝き続ける街」さっぽろ

これからの人口減少・超高齢社会を見据え、誰もが安心して暮らし、人とつながり、生涯現役として必要とされ、札幌の市民であることに誇りを持ちながら、生き生きと輝ける街。

「世界都市としての魅力と活力を創造し続ける街」さっぽろ

時代の変化を的確に捉え、新しい試みに大胆かつ果敢に挑戦し、国内外から人、モノ、情報などを引きつけ、世界都市としての魅力と活力を創造し続け、北海道をリードしていく街。



5 計画の推進に当たって

(1) 成果の重視と指標を用いた進行管理

戦略ビジョンでは、目標とする成果指標やロードマップを設定するなど、実現性を確保するための目安を設け、明確に進行管理を行うこととしています。

したがって、その実施計画として位置付けられるこの計画では、戦略ビジョンにおける成果指標について、計画期間内に到達すべき目標値を設定しました。

この成果指標と併せて、計画期間内における資本の投入量などを示す活動指標を事業ごとに設定し、各事業の進捗状況を経年で把握・検証していきます。

これら2つの指標により、計画全体の進行管理を行い、当初の想定どおり推移していない指標や、目標値を超えてさらに伸ばしていくべき指標に関連する事業については、毎年度、事業内容の見直しを行い、単年度予算に反映させることで、着実な計画の推進を図っていきます。

(2) 計画の柔軟な推進

札幌市を取り巻く社会経済情勢は今後も刻々と変化し、複雑多様化する地域課題や市民ニーズに的確に対応していくことが求められます。そのため、常に事業の必要性を検証しつつ適正な執行に努めるとともに、計画事業の見直しや新たな事業の実施などにより、柔軟に計画を推進していきます。

(3) 市民力の結集

人口減少・超高齢社会の到来による諸課題や、都市基盤¹の老朽化などの問題といった厳しい局面を乗り越えていくためには、市民、企業、行政の総力「市民力」を結集し、オール札幌で課題解決に取り組んでいかなければなりません。この計画には、この5年間の計画期間に札幌市が実施する全ての政策的事業を掲載しておりますが、その効果が最大限に発揮されるよう、市民や企業などの多様な活動主体と協力しながら取り組んでいきます。

(4) 北海道及び道内市町村との連携

北海道の発展なくして札幌の発展はないという考えのもと、道内178市町村と相互に補完し合う関係を築くとともに、北海道との連携をより一層強めながら、道都として北海道活性化の推進エンジンの役割を果たしていきます。